

1. 科目名(単位数)	スクールソーシャルワーク論 (2単位)	3. 科目番号	SSMP4306 SCMP4306
2. 授業担当教員	大門 俊樹		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	子ども家庭福祉におけるスクールソーシャルワークの位置づけを意識しながら、その固有性、特性をまず理解する。その後、①スクールソーシャルワークの価値、目的、役割、②アメリカ・韓国・日本のスクールソーシャルワーク、③学校及び連携機関の理解、④スクールソーシャルワークの基礎理論及び展開過程、⑤スクールソーシャルワーク実践などについて学んでいく。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>わが国の学校現場の理解、児童問題について理解したうえで、学校現場にスクールソーシャルワークを導入する意義について理解し、説明することができる。</li> <li>スクールソーシャルワークの実践過程、理論及びわが国における実践状況を学ぶとともに、海外のスクールソーシャルワーク実践についても理解し、説明することができる。</li> <li>わが国においては、これから作られていく新しい領域であり、エビデンスに基づいた実践へと発展することを目標とする。</li> </ul>		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	授業期間中に、学校または子ども支援に関する施設へボランティアとして行き、フィールド体験を行うとともに、その内容と成果についてレポートにまとめる。それ以外の課題については、授業中に指示する。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 山野則子・野田正人・半羽利美佳編著『よくわかるスクールソーシャルワーク 第2版』ミネルヴァ書房2016年。 <b>【参考書】</b> 日本学校ソーシャルワーク学会『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規、2008年。 門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと 学校ソーシャルワーク実践ガイド』中央法規、2009年。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1) 学校現場にスクールソーシャルワークを導入する意義について理解し、説明することができるか。 2) スクールソーシャルワークの実践過程、理論及びわが国における実践状況、海外のスクールソーシャルワーク実践について理解し、説明することができるか。 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合的に評価する。 1 授業への積極的参加 総合点の20% 2 レポート 総合点の50% 3 フィールド体験とそのレポート 総合点の30%		
12. 受講生へのメッセージ	1. 本授業の受講については次の点が前提となる。 ・3年次にソーシャルワーク実習を終了していること。 ・社会福祉士または精神保健福祉士の国家資格取得に向けて十分な学習をし、基本的知識と技術を備えていること。 ・スクールソーシャルワーク実習に行く準備をしていること。 2. 欠席・遅刻・早退をしないこと。 3. 授業中は携帯電話やPHS等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。 4. 授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も改善が見られないときは、F評価とする。 5. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、恥ずかしがらずに前に出ること。 6. 授業中に指示された課題の提出期限は厳守すること。		
13. オフィスアワー	最初の授業で発表する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(内容・進め方・評価方法・スクールソーシャルワークの現況等)	事前学習	なぜスクールソーシャルワークを学ぼうと思うのか、よく考え整理して授業に臨む。
		事後学習	スクールソーシャルワークの現況についてわかったことをまとめる。
第2回	学校・子どもたちが抱える課題	事前学習	現在、学校・子どもたちが抱える課題を挙げて授業に臨む。
		事後学習	テキスト第1章を熟読し、「なぜスクールソーシャルワークが必要なのか」についてまとめる。
第3回	スクールソーシャルワークとは	事前学習	テキスト第2章を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	スクールソーシャルワークの価値、目的と役割についてまとめる。
第4回	アメリカのスクールソーシャルワーク、韓国のスクールソーシャルワーク	事前学習	テキスト第3章第1～3節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	アメリカと韓国のスクールソーシャルワーク

			から学べる点についてまとめる。
第5回	日本のスクールソーシャルワーク	事前学習	テキスト第3章第5～6節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	日本のスクールソーシャルワークの歴史についてまとめる。
第6回	学校教育とスクールソーシャルワーク① (教育行政の仕組みと学校)	事前学習	テキスト第4章第1～3節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	教育行政の仕組みと学校についてまとめる。
第7回	学校教育とスクールソーシャルワーク② (スクールソーシャルワークにおける教育委員会の役割)	事前学習	テキスト第4章第4, 6, 7節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	スクールソーシャルワークにおける教育委員会の役割についてまとめる。
第8回	教育(学校)が連携する機関とその機能① (児童相談所と福祉事務所の機能)	事前学習	第5章第1～3節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	児童相談所と福祉事務所の機能についてまとめる。
第9回	教育(学校)が連携する機関とその機能② (福祉事務所・要保護児童対策地域協議会・児童福祉施設の機能)	事前学習	第5章第4, 5, 8節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	市町村と要保護児童対策地域協議会についてまとめる。
第10回	スクールソーシャルワークの基礎理論	事前学習	第6章を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	エコロジカル・アプローチと修復的対話についてまとめる。
第11回	スクールソーシャルワークの展開過程 (ミクロ実践の展開過程)	事前学習	第7章第1～3節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	ミクロ実践の展開過程についてまとめる。
第12回	スクールソーシャルワークの展開過程 (メゾ実践の展開過程)	事前学習	第7章第4～7節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	メゾ実践の展開過程についてまとめる。
第13回	スクールソーシャルワーク実践 (いじめとスクールソーシャルワーク)	事前学習	第8章第4節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	いじめとスクールソーシャルワークについてまとめる。
第14回	スクールソーシャルワーク実践 (児童虐待とスクールソーシャルワーク)	事前学習	第8章第8節を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	児童虐待とスクールソーシャルワークについてまとめる。
第15回	まとめ(スクールソーシャルワークの必要性について総合的に考察)	事前学習	なぜスクールソーシャルワークが必要とされてきているのか考える。
		事後学習	秋のスクールソーシャルワーク実習において何を得ようと思うか考える。